

大日屋曉雨 (六卷)

帝キネマ現映代書

脚色者 近松門吉氏
監督者 佐藤樹一路氏
撮影者 塚越成治氏
主演者 松本田三郎氏
紹介 第二百五十五號

總てが安つばいのできつぱり見覚えおなかつた。歌舞伎劇では「俠客春雨傘」で知られ、實説では吉原の通人として豪奢な放蕩史を馳す大日屋曉雨の事蹟には餘りに貧弱過ぎて興が乗らない事甚しい。近松門吉氏の原作並脚色も成程氏の創意に依る所が多いかも知れないが趣向が幻雑だ。殊にラストで彌左衛門を怪談で罪を白状させる件りなご少々馬鹿々々しかった。大口屋の俠氣も見得もこゝ貧弱な雰囲気の中では如何にも榮えない。之れに鵲組の辻斬りなどは幾ら商品映畫とは云へ悪趣味の極みである。松本田三郎氏の曉雨も二代目の助六を窺取る一代の遊湯兒の佛をしのばすには少し無理。返つて市川小幡氏の方の性が根を出して居た。泉清子嬢の花扇はこんな役をさせては未だ馳け出した。そこへゆくと松枝鶴子嬢の花扇はさすが板に付いて居る。

——山本 綠葉——

興行價値——關東方面では歌舞伎座で上演した「俠客春雨傘」の映畫化とでもしたら幾分得があらう。(三月二十七日、大阪芦邊劇場、神戸相生座、京都キネマ俱樂部封切)